

学校教育目標		心豊かで健やかな身体を持ち、自ら学び、自ら考え、真剣に生きる生徒の育成		重点目標	① わかりやすい・問題意識を高める「めあて」による授業実践 ② 挨拶や返事、清掃活動などを自ら行う生徒への指導			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)
	重点目標に関する評価	① わかりやすい・問題意識を高める「めあて」による授業実践	○ 生徒の問題意識を高める「めあて」の設定	○ 「授業のめあてやまとめがある。」の平均数値 3.5以上とする(最高値4.0)	3	○ 授業のめあてやまとめについては、形が整いどの授業でも行われている。 △ めあてが1時間の授業ゴール地点を示しているかなど、質的な改善が必要である。 △ 板書やノート指導を家庭学習へつないでいくこと等が今後の課題である。	A	○ 学校の自己評価は適切である。 ○ 学力向上のために、様々な工夫改善がなされており、夏休み課題テストや11月模擬テストでは、その成果が全学年で現れている。 ○ 今日はこちらを学びたい、わかりたい」と生徒自らが思っていることが大切である。
○ つかませる学習内容には、活動を設定する。			○ 授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。生徒回答平均値を全国平均以上とする。	4	A			
○ 家庭学習までつなげるノート指導と板書の工夫			○ 先生の説明や学習プリント、板書はわかりやすいとする平均数値3.5以上とする。	4	A			
○ 学力調査問題のねらいや実態を分析する。			○ 全国・県の学力調査問題を職員が採点し、分析まで行う。(10割実施、11名)	3	A			
② 挨拶や返事、清掃活動などを自ら行う生徒への指導		○ 他者を敬い、自分に問うあいさつ指導	○ 「勝立中学校の生徒は、挨拶がよくできていますか。」8割以上目標(保護者等アンケート調査)	3	○ 職員と生徒が共に取り組む「あ・そ・ふ・じ」運動により、挨拶や清掃、時間厳守などの生活規律の定着が見られる。 △ 長期休業後に生活習慣が乱れている生徒が見られるため、保護者と連携しての家庭教育の取り組みが課題である。	A	○ 学校の自己評価は適切である。 ○ 生徒は挨拶を良くしている。	○ 引き続き、「あそふじ」による取り組みを宮原中学校として継続する。
		○ 生活環境や学習環境を整えさせる清掃指導	○ 美化コンクールで、全クラスの平均3.5以上(最高40点)	4		A		
		○ 学習や生活の場に応じた服装指導	○ マナーチェック時に、服装等の出現率15%以内を目標(各クラス3名以内)	4		A		
		○ 時間を厳守することで信頼を築く指導	○ チャイムが鳴り終わるまでに着席している。3.5以上目標(生徒アンケート)	4		A		
③ 生徒一人一人の個性を大切に、諸能力を引き出す指導		○ 問題点の背景を捉え、課題を理解し、課題解決に取り組める生徒。	○ 先生からの課題や、学級等で、生徒が課題を立て、自ら取り組む割合を全国平均以上とする(全国学力状況調査)	4	○ 生徒が課題を見つけ、課題解決に取り組む形は整ったと考えられる。 △ 課題発見を行うとき、課題に対する意識や課題解決のための、思考や課題の根拠へのたどり着き方、客観的な立場になっての話し合い活動などまだまだ課題が多い。	A	○ 学校の自己評価は適切である。 ○ 勤労や就労への意欲はあると思う。ただし、文章で自分の気持ちなどを表現する方法や仕方が難しくなっていると思われる。 ○ 地域の人々がボランティアを受け入れる姿勢が必要と思われる。大人がボランティアに参加出来る場を今後作っていくことが求められる。	○ 宮原校区の特色は、これまでの米生中・勝立中の地域連携による地域の学校としての特色がある。今後も地域連携のもと、地域全体で子どもを育てる学校としての取組で、地域歴史、文化、自然に関する特色、福祉教育などの視点からの教育活動を行い、自らのキャリア設計を通して自己表現力などの育成を図る。
		○ 異なる年代の人々とのコミュニケーションできる生徒(ボランティア活動参加)	○ 地域社会などでボランティア活動に参加した生徒の割合を全国平均以上とする(全国学力状況調査)	4		A		
	○ 客観的に自分を見つめ、自らのキャリア設計が立てられる生徒(自己理解し、改善点の自己努力を行う)	○ 話し合い等から、自分の考えを深めたり広げたりすることができている生徒の割合を全国平均以上(全国学力状況調査)	4	A				
	○ 勤労観、職業観から未来社会へ向かう意欲を文章で表現できる生徒	○ 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと答えた生徒の割合を全国以下とする。(全国学力状況調査)	2	A				
いじめ	生徒が、学校生活で自分の活躍を実感できる教育環境づくりを行う。	○ 道徳の授業を中心に、規範意識を高め・人権感覚を育てる指導	○ 担任・副担任関係なく道徳の授業重点価値項目の授業実施率100%(教務調査)	4	○ いじめ問題をはじめとする差別や人権に関して。教師として必要な知識や具体的な行動や人権感覚などが見られる。 △ 子どもたちにとって、学校が安心して学べる環境となるためには、生徒集団づくりが課題である。	A	○ 学校の自己評価は適切である。 ○ 学年組織で、早期に対応され、問題を長期化させないことは、とても良いことだと思う。 ○ 自己有用感を皆で大切にしていることよい。	○ 再編による新たな職員集団づくりを行い、早期にチーム対応ができる指導体制の構築を図る。 ○ の連携を図ることと、学校全体で共通理解を図る場を設定する。
		○ 話し合い活動や協力する場を仕組む活動で、自己肯定感を高める指導	○ 「あなたのクラスに、困っている人を助けてくれる人はいますか。」の平均数値 3.5以上とする(最高値4.0)	4		A		
		○ 生徒・職員・保護者とのいじめ等に対応できるネットワークを作る。	○ 困ったり悩んだりした時に、相談できる先生はいますかの割合3.5以上とする。(生徒生活アンケート)	3		A		
不登校	一人一人の居場所づくりと関係機関との連携体制づくりに努める。	○ 所属感を感じさせるスキル(集団づくり)	○ 「あなたは、自分自身のことが好きですか。」の平均数値 3.0以上とする	3	○ 生徒の自尊感情が年々高まってきている。 △ 生徒の自己決定の場、共感的人間関係の場、自己存在感の場を持たせる教育課程の編成が今後の課題である。	A	○ 学校の自己評価は適切である。 ○ 誇りを持つことも大切と思われる。 ○ 自尊感情を大切に、個性が生きるように、周囲の人間関係力を高めてほしい。	○ 宮原校区の子どもの育成を支援する連携体制の確認をし、相互連携体制を構築する。 ○ 生徒指導の3つの機能を生かした教育活動を共通実践で組織的に行う。
		○ 有用感を感じさせるスキル(自分は役に立っている)	○ 「あなたは、クラスの中でみんなの役に立っていると思いますか。」の平均数値 3.0以上とする H26は2.8(最高値4.0)	3		A		
		○ 充実感を感じさせるスキル(学校は楽しい)	○ 「学校は楽しい」と感じる生徒の割合を全国平均以上とする(全国学力状況調査)	3		A		

◇ 評価について

- 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
- 【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである